こうし歴史発見！

第８回

合志町高千穂神楽（上庄区）

市指定文化財（指定年月日 昭和53年3月31日）

高千穂神楽は、宮崎県高千穂地方に伝わる民俗芸能ですが、明治21年（１８８８）、竹迫日吉神社氏子の上庄区有志８人が現地で研鑽（けんさん）を重ね、当地に持ち帰ったものと伝えられています。その後、代々上庄区民によって奉納されています。

戦後一時途絶えていましたが、昭和51年に新たに保存会を組織して復活し、奉納祭が挙行されました。合志市の指定文化財であり、現在第６代目が引き継いでいます。

合志町高千穂神楽

祭　日　元日、11月19日
奉納場所　竹迫日吉神社

須屋神楽（須屋区）

須屋で神楽が奉納されるようになったのは大正４～５年ごろで、大池から伝わったといわれています。第二次大戦中は舞手不足などの理由により中断していましたが、昭和49年に当時の区長らの尽力により再び舞われるようになりました。昭和53年には須屋神楽保存会が結成され、昭和57年には２代目に引き継がれて現在に至ります。

須屋神楽

祭　日　元日、11月15日
奉納場所　須屋神社

黒石神楽（黒石区）

須屋神楽から習い、平成６年に黒石神楽保存会が発足して始まりました。

黒石日吉神社は寛永13年（１６３６）の創建ですが、いつ頃から神楽が奉納されていたかなど、記録が残っていないため不明です。

黒石神楽

祭　日　元日、11月27日
奉納場所　黒石日吉神社

文化財保護委員から

文化財保護委員
村田　幸雄
（出分）

先人は浄財を寄進して社寺を造り、感謝や祈りの場としてきました。今回「歴史発見」で取り上げられた神楽は、それぞれ地元の神社で奉納されてきました。科学の発達した現代とはいえ、わたしたちの生活に根付いた感謝し祈る心は受け継がれています。文化財のいくつかにはそれらが現れており、神楽はその代表ともいえるものではないでしょうか。市内には、現在３つの神楽が伝承されています。そのおごそかな舞を鑑賞すると、わたし自身、今一度感謝する心を思い出し、現在があることにありがたみを感じます。

わたしが文化財保護委員になって10年と少し経ちますが、神楽だけでなく、それぞれの文化財には今の自分を見つめなおす機会を与えてくれる力が感じられます。

宝くじ助成事業で整備

コミュニティの健全な発展を図ることを目的としたコミュニティ助成事業により、江良区と本村区にワイヤレス放送システムが整備されました。また、竹迫観音祭保存会には祭に使用する備品が整備されました。

コミュニティ助成事業は、宝くじ普及広報事業費を財源として財団法人自治総合センターが助成決定を行なっています。今後の活用が期待されます。

江良区

本村区

竹迫観音祭保存会

素敵な人生　素敵なパートナー

男女共同参画推進懇話会
平山 誠子

8月に男女共同参画推進懇話会委員の視察研修に参加しました。その時、福岡県男女共同参画センター「あすばる」の中嶋玲子館長の講演を聞くことができましたが、とても迫力ある心に響く内容でした。

その中で、自殺者が９年連続3万人を超えていて、男性が約８割を占め、しかも40、50、60歳代の男性が多いということ、これが何を意味するのかについて話しがありました。これは、男性は子どもの頃から「泣くな、がんばれ。強くなれ。」と言われ続け、プレッシャーを与えられ、だれにも相談せず一人で背負って苦しんでいる結果であり、だからこそ男女共同参画社会は男性のためでもある、とのことでした。

わたしには2人の息子がいますが、男なんだからとか、男のくせに、と言ったことはありません。しかし、すでに社会の影響を受けてしまっています。それでも、将来一人で苦悩してほしくない、その思いから「男でも泣いていい、弱音を吐いてもいいのよ。」と伝えるようにしています。

わたしの懇話会委員としての活動も、旧西合志町から含めると今年で4年目になりますが、依然競争原理の弱者切り捨てで男性中心社会、そのためゆとりや他人を思いやるやさしさが欠けて、弱者への差別、また、固定化した役割にもとづく「男は外、女は内」という社会通念、偏見など、そのような高い壁の前で、無力なわたしにできることは、子どもたちに伝えていくこと、それと「男とは、女とはこうあるべきという思い込みや決めつけがないか、皆さんも一緒に考えていただけないでしょうか？」と問いかけていくことだけです。

わたしたちは、すべての人権が尊重され、支え合える社会の構築の目標にむけて、意識改革し、努力する必要があると思うのです。

ちょっと CHAT time

市内各学校でALT（英語指導助手）として子どもたちに英語を教えています。

Marc Waterfield
（マーク・ウォーターフィールド）
出身地：カナダ
ノバスコシア州
ハリファックス市

Hello Koshi, for all of you who are struggling with your English studies I have an inspirational story for you. I hope you enjoy it and continue to study English. Here we go.

Once upon a time there was a centipede that was amazingly good at dancing with all hundred legs. All the creatures of the forest gathered to watch every time the centipede danced, and they were all duly impressed by the exquisite dance. But, there was one creature that didn't like watching the centipede dance… that was tortoise.

You probably think he was just envious.

"How can I get the centipede to stop dancing?" Thought the tortoise. He couldn't just say he didn't like the dance. Neither could he say he danced better himself. That would obviously be untrue. So he devised a fiendish plan… He sat down and began to write a letter.

When the centipede received the letter she was so happy. She sat down and began to read it. 'O incomparable centipede,' wrote the tortoise, 'I am a devoted admirer of your exquisite dancing. I must know how you go about it when you dance. Is it that you lift your left leg number 28 and then your right leg number 39? Or do you begin by lifting your right leg number 17 before you lift your left leg number 44? I await your answer in breathless anticipation. Yours truly, Tortoise.'

When the centipede read the letter, she immediately began to think about what she actually did when she danced. Which leg did she lift first? And which leg next?

What do you think happened in the end?...The centipede never danced again. That is the way it goes when imagination gets strangled by reasoned deliberation. So please don't think too hard about all of the rules of the English language when you are trying to have a conversation. Don't worry if you are making grammatical mistakes. Just have fun and know that you are making a new friend, who is impressed by how well you can speak English.

Best of Luck.

こんにちは合志のみなさん、今回は日ごろ英語と格闘されている皆さんのために、おもしろい話があります。この話を楽しんでもらって、今後も英語を勉強し続けてもらいたいと思います。では。

昔々、百本すべての足でダンスが驚くほど上手なムカデがいました。ムカデが踊るたびに、森のすべての生きものたちは見物するために集まりました。そして彼らは全員洗練されたダンスに感動していました。しかし、ムカデが踊るのを見るのを好まなかった生きものが1匹だけいました…それは、カメでした。

あなたは多分、彼がただうらやましかったからだと思うでしょう。

「どうやったら、ムカデに踊りをやめさせることができるかな？」と、カメは考えました。彼は、ただそのダンスが好きじゃないということが言えませんでした。そして、彼は自分の方が上手に踊れると言うことができませんでした。それは明らかに偽りになるでしょう。そこで彼は巧妙な計画を考えつきました、…彼は座って、手紙を書き始めました。

ムカデが手紙を受け取ったとき、彼女はとても喜びました。彼女は座って、それを読み始めました。『だれもかなわないムカデさん』、と、カメが書きました。『わたしは、あなたの洗練されたダンスの大ファンです。わたしはあなたが踊るとき、あなたがどのように踊っているのかとてもとても知りたいです。あなたは左足の28番目を上げてから、右足の39番目を上げますか？それとも、左足の44番目を上げる前に、右足の17番目から始めますか？わたしはあなたの答えを心待ちにしています。あなたのカメより』

ムカデは手紙を読んで、すぐに自分が踊るときに実際にどう踊っているのかについて考え始めました。最初にどの足を上げるのか？そして次は、どの足？

あなたは、結局どうなったと思いますか？…ムカデは、二度と踊りませんでした。これは理屈を考えすぎて身動きできなくなるのと同じです。だからあなたが会話をしようとするとき、あんまり英語の原則について考えすぎないでください。あなたが文法の間違いをしているならば、どうか心配しないでください。会話を楽しんで、あなたが上手に英語を話すことに感動している新しい友人を作っているということに気づいてください。

幸運を。